



大英國祖稅說卷二

3395



114
A 1935
2



大英國租稅說卷ノ二

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

第一章

稅課ノ厚歛ヲ論ス

茲ニ一孤島ヲ領スル君主アリ、其管下ニ在ル農工商孰レモ皆其職業ニ從事ス、則チ農ハ耕耘ヲ務メテ百物ヲ産シ、商ハ交易ヲ務メテ有無ヲ通シ、工ハ鍛鍊ヲ務メテ利器ヲ製ス、此ノ如ク各相生シ相養ノ利ヲ圖ル、而シテ君主ハ農工商ノ家屋田土ニ就テ每歲其價直ヲ收メテ政府ヲ保存シ、陸ニハ軍團ヲ編シ、海ニハ戰艦ヲ製シ、以テ人民ヲ撫字ス、此ノ如キ君主モ、モノ尚ホ其人民ノ幸福ヲ益サシト欲セハ、公先ツ國民ヲシテ公不...

大正十一年四月

拂ハシムコヲ務メスンハアルハカノス蓋シ其
祖先世ハ文運未タ開キサリシカ故ニ或ハ
今ニ地カヲ活用スルヲ知ラス或ハ美計ニ暗クシ
テ均一ナル賦課ノ方法ヲ得ス或ハ愛憎ヲ以テ進
退シ或ハ喜怒ヲ以テ刑賞スル等ノ弊害アリテ其
賦課權衡ヲ失シ終ニ粗鹵ニ陥ル丁ナキ能ハサ
ルナリサレハ今日ノ國君ハ宜ク其弊ヲ矯正シ智
識ヲ開擴シ銳意勉勵以テ全國一般ノ賦課ヲ再查
シテ之ヲ整定シ而モ一切ノ苦情ナカラシムル等
專ラ其義務ヲ盡サスンハアルヘカラス或人曰ク
豪農巨商ノ如キ數多ノ工夫ヲ傭使スル者ニハ宜
ク其賦直ヲ免スヘシ何トナレハ工夫ハ傭主ヨリ
工錢ヲ得ルノミナラス傭主ノ家屋ニ住シテ生業

ヲ管三一切傭主ヨリ得ル所ノモノヲ以テ國君ニ
賦直ヲ致スカ故ニ傭主ヨリ賦直ヲ收ムレハ二重
稅ヲ課スル丁トナルナリ而モ斯ク傭主ノ力ヲ殺
ケハ其業衰微スルヲ以テ工夫ノ力モ亦自ラ減ス
ルナリ故ニ傭主ノ稅ヲ免スレハ工夫ヲ使用スル
ノ力ヲ増スヘケレハ即是レ國ヲ富スノ良圖タリ
ト此說理ハ似タレ氏傭主ノ囊中ヨリ出ス所ト工
夫ノ囊中ヨリ出ス所ト判然區分シテ徵收スル
能ハサルカ故ニ到底行ハルヘカラサルモノトス
又獨リ富人ノ工夫ヲ傭使スルノミナラス工夫ト
雖モ間接ニ職工ヲ傭使スル丁アリ何トナレハ工
夫カ費用ル物品ニハ職工其勞力ヲ施スヲ以テ
工夫ハ間接ニ職工ヲ傭使スルノ類トナルナリ且

工夫カ問ニ職工ヲ傭使スルハ官人直接ニ工
夫ヲ傭使アルヨリモ多シ例ハ一歳七十磅家
入アル工夫千人カ職工ヲ傭使スルヲ七萬磅ノ家
入アル富人一人カ工夫ヲ傭使スルニ較フレハ彼
ヨリ多キヲ知ルヘシ
又工夫ヲ保護スル者ノ曰ク貧者ノ家屋税ヲ免除
シ全國課税ノ重荷ヲ一ニ富人ニノミ負ハシムヘ
シト此説決メ採ルヘカラス何トナレハ凡ソ身體
壯健ニシテ工職ニ従事スルニ堪ヘタル者ニシテ
他人ノ扶助ヲ仰キ或ハ自己ノ責任ヲ他人ニ負ハ
シムル等ハ人ニ於テ當ニ之レアルヘカラサル事
ニシテ苟クモ人民タルモノハ宜シク其力ニ相應
シタル國費ヲ出スヘキ筈ノモノナレハナリ

課税ヲ免除スルニハ果シテ免除スレハ何人カ其
恩惠ヲ被ムルヤヲ推究セスレハアルヘカラス譬
ハ茲ニ豪農アリテ獵師ヲ傭ヒ毎週賃錢ヲ拂ハ
ンニ獵師ハ自己ノ家屋一住シ傭主ヨリ得ル所ノ
賃錢ヲ以テ麥酒砂糖等ヲ購求シ為メニ其税ヲ拂
ハンニ是時ニ方テ此税ヲ免除スルハ其恩惠ハ
獨リ獵師ノ受クル所トナルヘシ然ルニ僕隸ノ如
ク住所ヨリ食料ニ至ルマテ皆傭主ノ給ヲ仰ク者
ハ仮令其税ヲ免除スルト雖モ家僕ノ益トハナラ
ズシテ却テ傭主ノ益トナルヘシ是故ニ一税ヲ免
除スルニモ其課税ノ落ツル所ニ因テ恩惠ヲ蒙ル
ルノ差法アルヲ知ルヘシ或ハ曰ク税課ノ落
所ヲ論究スルハ事頗フル迂遠ニ屬スト殊ニ知ラ

ス其落ツル所ヲ論究スルハ人民ニ對シテ實際止ニ
於テ其情ヲカラシメ且我國ノ基礎ヲシテ益堅固
ナラシメ而シテ其成果ハ一般人民ノ福祉安寧ヲ進
ムルモノナレハ決シテ迂遠ニ屬ストハナスヘカラ
ス事ハ後文ニ於テ説クヘシ

第二章

穀類加琲砂糖茶等ノ費額ヲ論

シ併シテ課税ノ多寡ヲ計ル事

今夫ノ間税物ノ費額ヲ計ラント欲スレバ其種類
多キヲ以テ一々枚舉スルニ勝ヘズ因テ其最モ緊
要トスル所ノモノ、ミヲ提舉シテ左ニ掲載スヘ
シ蓋シ穀類加琲砂糖茶等ハ之ヲ他物ニ比スレバ
甚タ人民ノ幸福ト習慣トニ関スルカ故ニ常ニ政

學家ノ筆闘舌戦スル所ナリ是故ニ其穀類ノ費消
額ヲ計ル丁又ハ課税額ヲ減スレハ穀類費消ノ増
加スル等ノ丁ヲ見ルハ最モ宜ク注意スヘキ所ノ
モノナリ

穀類ノ費額

穀類ハ課税物中最モ必要ノ物品ナリ初メ此税ヲ
賦課シタル中ハ其收額鮮少ニシテ計ルニ足ラズ
シテ殆ント記録税ノ一種ノ如クナリシカ氏人口
繁殖シ家入増加シ國産多キヲ致スニ從テ收額多
キヲ加ヘ終ニ會計上ニ著名ナル税トナレリ當時
小麥ノ市價ハ一コトトシテハ二付一疇吟ノ騰
貴ヲ致シタル言ヲ竝タズシテ知ルヘシ而シテ其
騰貴シタル原因ハ税課ノタメニシタルモノ多

キニ居ルナリ、今其費額ヲ見ルニ一等人民カ費用
 スル小麥ノ額ハ一員ニ付平均二十一斤ニシテ上
 等人民ノ費額ハ十四斤ナリ、乃チ上下合シテ一歳
 ノ費額二千百萬、コレトトナルナリ、此算計ニ
 據テ觀ルキハ下等人民一員ニ付九斤ヲ課セラル、
 其内三斤ハ真ノ稅課ニシテ餘ノ六斤ハ課稅ノ為
 ノニ間接ニ騰貴シタルモノナリ、又小麦稅ハ右ト
 同額ヲ收ムル所ノ他ノ穀類稅ニ比スレハ甚タ苛
 歛ニシテ下等人民ヲ困苦セシムルト少ナカラサ
 ルナリ、乃チ穀類稅ヲ平均スレハ分頭六斤ニ當ル
 ナリ

茶ノ費額

茶ノ費額ハ一千八百零一年ヨリ同ク四十三年迄

ハ増加スヘキ景況アラサリシナレバ其後甚タ速
 ニ増加シタリ左ノ如シ

年	費消額、統計	一斤ノ課稅額	分頭費額
一千七百四十二年	八十八萬斤	五時 吟	一オンス ^七 五 ^分 半
一千七百五十年	二百七十萬斤	二時 吟	四オンス
一千八百零一年	二千三百七十萬斤	一時吟二片半	一斤ト八オンス
一千八百四十二年	四千零三十萬斤	二時吟三片 ^全	全
一千八百五十二年	五千四百七萬斤	全	二斤
一千八百五十六年	六千三百三十萬斤	一時吟九片	二斤ト六オンス
一千八百六十七年	一億一千百萬斤	六片	三斤ト十一オンス

右ノ費額ヲ見レハ課額ヲ減殺シテ費額ハ増加シ
 タル、其ハ甚タ大ナリ、乃チ一千八百五十二年ニ
 ハ二時吟二片二分五厘ヲ課シ、同ク六十七年ニ至

テ之ヲ一時吟九片ニ減シタリ。其十五年間ノ
 費消額、殆ント二倍シタリ。又一千八百五十七年
 國稅局ニ於テ工夫ノ費消額ヲ計ラント欲シテ三
 百有余ヶ所ノ都城及村落ノ商人ヨリ稟報書ヲ集
 收セシカ、皆信ヲ取ルニ足ルモノナレハ之ニ據テ
 其費消額ヲ算計セシニ、其五分六厘ハ上中等人民
 ノ費消額ニ屬シ、其四分四厘ハ下等人民ノ費消額
 ニ屬セリ。又一千八百五十六年ノ調ニ據ルニ其全
 額ハ六千三百三十萬斤ニシテ、上中等人民ノ費消
 額ハ分頭九ツ四斤半、下等人民ノ分頭ハ一斤半ニ
 當ルナリ。又一千八百五十七年ノ費消額ハ五千八
 百萬斤ニシテ、其内九ツ四分ノ三八工夫ノ費消ニ
 屬セリ。當時人口二百萬増加シタレハ其費消額モ

亦増スヘキナレ氏、今姑ク之ヲ計ラスシテ右全額
 ヲ分頭スレハ、上中等ハ一斤、下等ハ一斤半ニ當ル
 ナリ。一千八百五十六年ノ國稅局ノ調ニ據レハ、上
 中等ノ分頭費消額ハ五斤半ニシテ下等ハ三斤ニ
 當ルナリ。此割合ハ實地ノ問題ニ差適合シタルモ
 ノトス

加球ノ費額

加球ノ費額ハ甚タ大ナル變化ヲ生セリ左ノ如シ	費消額ノ統計	一介ノ課稅額	分頭ノ費額
一千七百四十年	十三萬斤	一時吟六片	一オンス十斤一
一千八百零一年	七十五萬斤	同	一オンス
一千八百一十一年	六百三十九萬斤	七片	八オンス
一千八百二十一年	七百三十二萬斤	十時吟	同

一千八百四十一年 二千七百三十九斤 六片 一介七オス半
 一千八百五十一年 三千五百九十斤 四片 一介四オンス
 一千八百六十七年 三千百三十九斤 三片 一介
 一千八百零一年ニハ課税重カリシカ為メニ貧人
 ハ之ヲ費用スルヲ得ス專ラ富人ノニ費用シタリ
 然ルニ一千八百十一年ニ至テ課額ヲ七片ニ減シ
 タレハ其年ノ費用額ハ九ノ七倍ノ多キヲ増セリ
 然ル所其後再ヒ課額ヲ加登シテ一時吟ニナセシ
 キハ其十二年間ハ少シモ費用額ヲ増加セズ加之
 ナラス一千八百二十五年ニ至テハ更ニ六片ニ減
 シタリ然ルニ同ク四十一年ニ及テ分頭費用額三
 倍シテ一介半ニ登レリ其後又税課ヲ減シタレハ
 費用額ハ増サ、リシナリ蓋シ其増サ、リシ原因

ハ茶及ヒ「チコリ」ヲ用ウルモノ多キニ至リタレ
 ハナリ

砂糖ノ費用額

砂糖ノ費用額ハ一千八百零一年ヨリ同ク四十三年
 迄更ニ増減ナク茶ト同額ナリシカハ其未製品ノ
 分頭額ハ十八介ニ當ルナリ左ノ表ハ其増加シタ
 ルヲ示スモノナリ

年	費用額ノ統計	ホドレツト上ノ課税額	分頭ノ費用額
一千七百年	二千ホドレツト上ノ計 十三貫四百四目	三時吟五片	三介
一千七百五十四年	百六萬五千	六時吟八片	十二介
自一千八百零一年 至同十四年	二百八十五萬	一磅六時吟二片	十八介
一千八百四十三年	四百零三萬	一磅五時吟二片	十七介
一千八百五十四年	八百三十三萬	十一時吟六片	三十四介

一千八百五十七年 一千七百七十萬 九時 四十斤半
右ノ表ニ據レハ一千八百五十六年ニ費消額ヲ減
少シタル根源ハ課税額ノ重キヲ加ヘタル砂糖
ノ價直ノ騰貴シタルトニ因ルナリ
一千八百五十七年ニ國稅局ニ於テハ砂糖商人ヲ
シテ稟報書ヲ出サシメ其賣揚高ヲ計リテ人民ノ
費消額ヲ算シタリシカ其六分ハ上中等ノ人民ニ
屬シ其四分ハ下等人民ニ屬シタリ又釀造家糖菓
商等ノ費消額并ニ精製スルノ際消費スル所ノ額
ヲ除キテ其分頭費額ヲ計算スレハ上中等人民ニ
ハ五十斤下等人民ニハ十二斤半ニ當ルナリ又右
表ニ據レハ一千八百五十六年以來費消額ノ増加
シタルト甚タ多シ蓋シ此増加額ノ内ヨリ釀造家

糖菓商ノ費額ト其精製費消額トヲ除キ且當時人
口増シタルヲ以テ費額モ幾分減セサルヲ得ス
故ニ此費額ヲ大抵五千萬斤ト看做テ之ヲ除キ以
テ其純額ヲ計レハ三億五千萬斤ヲ得ルナリ即チ
之ヲ全國人民ノ費用スル所トス今之ヲ分頭スレ
ハ上中等ノ人民ニハ五十五斤下等人民ニハ十四
斤ニ當ルナリ
凡ソ是等ノ費額ヲ算スルハ甚タ難キモノトス
然ルニ今其實算ヲ成シ得タルカ故ニ大ニ之レカ
確實ナル所ヲ示スヲ得タリ因テ先ツ之ヲ算計ス
ルニ方テ正確ナル引用トナシテ採リタル夫ノ「マ
ンチストル」縣及「其他ノ府城」ニ住スル十八戸ノ
所出入額ヲ左ニ揭示スヘシ但「其算法」タル先ツ

此十八戸ノ一歳ノ費消額ヲ計リテ之ヲ分頭ニ而
 ノ其一戸ノ家ハ平均七十六磅ト假定シ各九磅
 七時吟九片ノ就直ヲ拂フニ堪ヘタルモノトシテ
 計リタルナリ

一茶	分頭額
一加琲	一斤ト四分ノ一
一砂糖	三斤
一烟草	十七斤半
	九斤半

右ノ費額ヲ計リシキハ茶一斤ハ二時吟二片半ヲ
 課シ加琲一斤ハ六片ヲ課シ砂糖一、ホンドレツト
 ウエ井上へ二十五時吟二片烟草一斤ハ三時吟ヲ
 課シタリ蓋シ「マ」ンチストルハ他ノ諸縣ニ比スレ

ハ其費額最モ大ナルカ故ニ最モ確タル模範トス
 ルニ足レリ
 又一千八百六十一年「マ」ンチストル其他ヲ合シテ
 六千五百五十戸ノ費消額ヲ平均シ以テ左ノ分頭額
 ヲ得タリ

一茶	二斤
一加琲	二斤半
一砂糖	五十斤
一烟草	一斤ト三分ノ一

當時茶税一時吟五片加琲三斤砂糖十四時吟烟草
 三時吟ナリ
 左ノ表ハ一千八百六十八年ニ調査シタル所ノ費
 消額ニシテ貴族職工書記等ニ係ルモノナリ

頭額ヲ得タリ	一千六百六十八年ニ工夫ノ費額ヲ計リテ左ノ分	一加琲	一茶	一砂糖	一烟草
上等家族	中等ノ上	中等ノ下	下等家族	拾斤ヨリ十二斤	五斤ヨリ七斤
中等	上	中等ノ下	下等家族	九十斤ヨリ百斤	五十斤ヨリ七十斤
中等ノ上	中等ノ下	下等家族	下等家族	五十斤ヨリ七十斤	二十斤ヨリ五十斤
中等ノ下	下等家族	下等家族	下等家族	二十斤ヨリ五十斤	五十斤
下等家族	下等家族	下等家族	下等家族	二十斤ヨリ五十斤	五十斤

右ノ表ニ據レハ茶税砂糖税等ノ減シタルニ由テ人民カ恩惠ヲ蒙ムリシ丁數ナカラサルヲ知ルニ足ルヘシ

大英租稅後

第三章

酒精及ニ烟草ノ費額

或人ノ説ニ貧人ハ屢烟草ヲ以テ食料ノ缺乏ヲ補フト此説何ニ據リテ言ヘルカ未タ其根源ヲ知ラズ然レモ五百五十萬ノ工夫カ烟草税トシテ納ムル所ノ金額ハ甚タ大ナルモノニシテ乃チ之ヲ分頭スレハ十五疇哈ニ當ルナリ是レ以テ工夫等カ烟草ヲ嗜ムノ甚シキヲ知ルニ足ルヘシ乃チ尋常ノ財産ヲ有スル者即チ貧富ノ間ニ居ル者カ費ヤス所ノ額ハ一週間ニ一オンズ半ニシテ之ヲ歲計スレハ四斤ト四分ヲ二當ルナリ又農夫或ハ下等職工ノ費額ノ如キハ種々ニシテ一定スル能ハサレモ大抵一オンズヨリ四オンスニ至ルナリ然

ルニ上等職工ノ之ヲ嗜好スル者ハ一週ニ六オ
 ンスヲ費ヤスナリ又漁者ノ如キ間暇アル職ニ就
 ク者或ハ他人ニ傭使セラレステ自ラ業ヲ営ム
 者ハ自ラ吹煙ヲ嗜好スルナリ他人ニ傭使セラレ
 テ其束縛ノ下ニ服役スル者ハ間暇少ナキカ故ニ
 費消額モ亦少ナキノ理ナリ又間、婦人ニテ吹煙ヲ
 嗜ム者アリ然レモ是等ハ其費消スル所甚タ少ナ
 ク一週ニ二オンスヨリ三オンスニ過キス蓋シ工
 夫ノ費消額ハ他ノ人民ニ比スレハ甚タ多シ何ト
 ナレハ工夫五百五十萬アリテ其四分ノ三ハ之ヲ
 嗜好シテ則チ一週ノ費額ニオンスニ及フ丁屢十
 レハナリ今左ニ一般人民ノ費用スル所ノ平均額
 ヲ示スヘシ

年	煙草費消額	一斤ノ課稅額	分頭費消額
一千七百八十九年	一千零九十萬斤	一峙吟	十二オンス
一千八百零一年	一千六百九十萬斤	一峙吟七片	一斤
一千八百二十一年	一千五百零五萬斤	四峙吟	十二オンス
一千八百四十一年	二千二百三十萬斤	三峙吟	十三オンス
一千八百六十年	二千五百二十萬斤	同	一斤四オンス
一千八百六十七年	四千零八萬斤	同	一斤五オンス三分一

右ノ表ニ據テ見ルニ一千八百年ヨリ以來課稅額
 殆ント三倍シタルカ故ニ向後漸ク吹煙者ノ弊習
 ヲ矯正スルヤ疑ヒナシ然ルニ其後二十年間ハ課
 稅額ヲ減少シタルハ其費消額ハ増加スヘキ筈ナ
 ルニ却テ増サントシナリ又其後ノ二十七年間ハ
 少シク課稅額ヲ減シタルモ其費消額ハ殆ント二倍

シタリ、蓋シ此増加ハ全國一般ノ繁盛ト諸業ヨリ
生スル所ノ得益ノ増加セルトニ因レルナラン
葡萄酒ノ費額

葡萄酒ハ上中等ニ居ル人民ト雖モ之レヲ華奢物
トナスカ故ニ一歳六百磅乃至ハ七百磅ノ家入ア
ル者ノ如キハ之レヲ用フルニ務メテ節省スルハ
課税ノ波及スル所大ナレハナリ、其費消額左ノ如
シ

英蘭及威兒斯	費消額統計	一加倫ノ課稅額	分頭ノ費消額
一千八百六十九年	一千百萬加倫	四片	二加倫 <small>一加倫ハ九 我并五合</small> 半
一千七百年	五百六十萬加倫	二時吟二片	一加倫一分
一千七百五十年	四百萬加倫	五時吟	一加倫七分
大不列顛	費消額統計	課稅額	分頭ノ費消額

一千八百零一年	六百九十加倫	六時吟三片	一加倫四分三厘
一千八百二十一年	四百七十加倫	八時吟五片	同 二分二厘
一千八百四十一年	六百二十加倫	五時吟五片	同 二分三厘
一千八百五十九年	六百七十七加倫	五時吟二片	同 二分三厘
一千八百六十七年	一千三百零七加倫	二十時吟	同 四分二厘

ポルトル氏ノ報ニ據テ一千八百五十一年佛蘭西
ノ葡萄酒ノ費消額ヲ見レハ分頭十九加倫ニ當リ、
英蘭ノ麥酒ノ費消額ハ分頭二十九加倫ニ當ルナ
リ、蓋シ佛ノ葡萄酒ト英ノ麥酒トハ殆ント相對等
スルモノナリ、又上中下等人民ノ費消スル葡萄酒
ノ額ヲ計ルニ平均家令ノ百分ノ五ニ當ルト云

麥酒ノ費額

麥酒黑麥酒ノ稅ヲ見ルニ麥芽稅ハ一、ゲセル稅一、

斗ハニ付二時吟八片羊ヲ課シ、又釀酒税トシテ三片羊ヲ課ス、右ヲ合シテ之レヲ計レハ三時吟ニ當ルナリ

左ノ表ハ英蘭及威兒斯ニ於テ一千七百年以來費消シタル所ノ額ナリ、即チ一「ブセル」ノ麦芽ハ麥酒十八加倫ヲ産スルモノトス、然レ氏或ハ誤算ナキヲ保スルヲ得サルカ故ニ、一千七百零六年ヲ拾四加倫、同ク五十年ヲ十五加倫、同ク八百零三年ヨリ同ク三十年迄ヲ十七加倫、其後ハ十八加倫ヲ産スルモノトシテ計算シタルモノナリ

一千七百零六年	二千三百萬「ゲセル」	一千七百五十年	二千九百萬「ゲセル」
一千八百零三年	二千九百萬「ゲセル」	一千八百二十年	二千六百十三萬
	麦芽ノ費消額		麦芽ノ費消額

一千八百三十年	二千六百九十萬	一千八百四十二年	三千零九十五萬
一千八百六十一年	三千九百二十萬	一千八百六十七年	四千二百十五萬
	麥酒ノ費消額	一加倫ノ課税額	分頭ノ費消額
一千七百零六年	三億二千五百萬加倫	六片、四分、三	六十二加倫
一千七百五十年	四億三千五百萬加倫	同	七十二加倫
一千八百零三年	五億零百五十萬加倫	二時吟五片	五十五加倫
一千八百二十一年	四億四百三十萬加倫	三時吟七片四分	三十七加倫
一千八百三十年	四億五千七百三十萬加倫	二時吟七片	三十三加倫
一千八百四十一年	五億零七百十萬加倫	二時吟八片羊	三十五加倫
一千八百六十一年	七億六百萬加倫	二時吟	同
一千八百六十七年	七億五千八百萬加倫	二時吟八片羊	三十六加倫
一千七百零六年	七億五千八百萬加倫	同	同

五十七年ヨリ同ク八百三十年迄ハ減少シタリ、其間

殆ト八十一年ノ星霜ヲ歴テ人口ハ増加シタレ氏
麦芽ノ費消額、曾テ増サ、リシナリ、是レ實ニ緊
要ナル事ナレハ最モ能ク注意セズンハアルヘカ
ラス

酒精ノ費額

當時ノ酒精税ハ甚タ重シ、歷史上ニ於テ屢諸税ノ
重キモノヲ見ルト雖モ未タ此ノ如キモノハ見サ
ルナリ、抑初メ酒精税ヲ課セシハ一千六百六十年
ノ丁ナリシカ當時ハ一加倫ニ付二片或ハ三片ヲ
課シタルナリ、又英蘭及威兒斯ノ費消額ヲ見レハ
一千六百八十四年ニハ五十二萬七千加倫ナリシ
カ、一千七百零六年ニハ増加シテ百六十七萬五千
加倫トナリ、同ク三十六年ニハ六百萬加倫ニ登リ

タリ、蓋シ此ク費消額ノ増加スルヲ見テモ酒客ノ
多キヲ徴スルニ足ルナリ、故ニ議院ニ於テハ常ニ
一大論主トナリテ其議論絶エサルモ怪ムニ足ラ
サルナリ

一千七百三十六年^{燒酎ノ}酒法ヲ定メ一加
倫ニ付二十噺吟ヲ課シ、而シテ又零賣店ノ發賣ヲ禁
シ之ヲ罰スルニ嚴刑ヲ以テセシカ暴飲密賣益止
マス却テ犯則人多クシテ一層訟獄ヲ繁クセリ、是
ヲ以テ止ヲ得ス税則ヲ改正シテ課額ヲ輕減セリ、
乃チ一千七百四十三年下院ノ委員カ稅管査シタル
所ニ據レハ英蘭及威兒斯ニ於テ費ヤス所ノ額漸
ク増加シテ一千九百萬加倫ニ及ヒタリ、即チ是レ
六百萬人ノ飲費スル所ニシテ之ハ^酒分頭スレハ

三加倫以上ニ當ルナリ、故ニ坊間ニ於テ男女ノ酩酊シタルモノヲ見ルハ異トスルニ足ラス、而モ此醜體ヲ為スハ獨リ下等人民ノミニ限ラサルナリ、然ルニ其後又漸ク課額ヲ加登セシメタリ

酒 精	費消額ノ統計	一加倫ノ課稅額	分頭ノ費消額
一千八百零二年	一千五百六十萬加倫	六時吟一片	一加倫九分八厘
一千八百一一年	一千三百十六萬加倫	十時吟四片	同 六分三厘
一千八百一二年	二千四百十萬加倫	六時吟二片	同 九分
一千八百一十九年	二千六百十六萬加倫	八時吟四片	同 八分
一千八百六十七年	二千九百五十五萬加倫	十時吟一片	同 九分八厘

右ノ外尚ホ密造スルモノ少ナカラズ、且愛爾蘭ノ如キハ課稅額增加スルニ從テ收額減少スレモ點策ヲ運シテ益隱蔽ヲ巧ニスルカ故ニ法律ヲ以テ

スル雖モ禁スル丁能ハサルナリ、左ニ英蘇愛三個國ノ酒精費消額ヲ掲ク、即チ一千八百六十七年ノ稽查ニ據レルナリ

英蘭威兒斯	千八百四十萬加倫	十時吟一片	一加倫九分
蘇各 蘭	五百八十萬加倫	十時吟	二加倫
愛爾 蘭	五百二十四萬八千加倫	同	一加倫九分三厘

又英蘭威兒斯ノ酒精及葡萄酒等ノ分頭費消額左ノ如シ

葡 萄 酒	酒 精	麥 酒	
自一千七百零六年至同 六十年	一加倫一分	一加倫三分三厘	六十二加倫
自一千七百四十三年至同 五十年	七分	三加倫	七十二加倫
自一千八百零二年至同 六年	四分三厘	九分	五十五加倫
一千八百六十七年	四分二厘	九分	三十六加倫

適宜ニ酒精ヲ飲費スル者ノ額ヲ其家入ニ比スレ
ハ之レカ等差甚多トス尤モ大戸ト雖モ必ス其
家入ノ多寡ニ應シテ制限セラル、所ナクシハア
ラス又爰ニ酒客ノ費消額ヲ計ルニ最モ緊要ナル
報ヲ得タリ、乃チ余ニ此報ヲ贈リタル者ハ頗ル此
事ニ熟練セルカ故ニ其益スル所多シ

麦酒ノ費消額

耕夫ノ適宜ニ飲酒スル者

一歳ノ家入四十五磅ヨリ五十磅迄ヲ得ルト看做
シテ、一日ニ必ス一盃或ハ二盃尋常ノゴツプヲ飲
ムト為シ且之レニ臨時ノ飲料ヲ合セテ一家ノ一
歳ニ費マス額ヲ算計スレハ七十五加倫ニ當ルナ
リ、又酒精ヲ飲ムトハ甚稀ナリ、婦人ノ如キハ時ト

シテ少量ノ麦酒ヲ用フ

都城ニ住スル工夫ノ適

宜ニ飲酒スル者

一歳ノ家入五十磅ヨリ六十磅迄ヲ得ル者其婦人
ノ飲料ヲ合シテ一日ニ三盃ヲ飲ムト為シ、且臨時
ノ費消額ト共ニ之レヲ算スル中ハ、一歳ニ麦酒七
十五加倫此他酒精一加倫或ハ二加倫ヲ費ヤスナ
リ、蓋シ此算計ニ據テ一週間ノ費消額ヲ計ル中ハ
麦酒ト酒精トニテ二時吟或ハ二時吟六片、烟草ニ
テ六片、或ハ一時吟ヲ費ヤスナリ

工匠ノ適宜ニ飲酒スル者

一週ノ家入三十五時吟ヨリ四十時吟迄ニシテ一
日ノ麦酒六盃ヲ飲ムト為シテ計ル中ハ、一歳ニ百

五加倫此他酒精ニ加倫或ハ四加倫ヲ費ヤス割
トナルナリ此費消額ニ據テ一週間ニ四時吟六片
ヨリ五時吟迄ヲ費ヤスナリ又此外ニ烟草ニテ一
時吟ヲ費ヤスナリ

但シ右ニ計リタル費消額ハ各家族ニ平均セ
シモノナレハ各人ノ費消額ヲ見ントスルニ
ハ四或ハ五ヲ以テ割ルヘシ

豪飲者ノ費消額

豪飲者ノ費消額ハ他人ニ較フレハ甚ダ多ク其家
入ノ半額ハ麦酒酒精烟草等ニ費ヤスヘク又愛爾
蘭人ハ英吉利人ニ較フレハ一層豪飲ナリ英愛兩
國ノ人ハ土曜日ノ夜ニハ一週ヲ給料ヲ擲テ飲酒
スル事屢ナリト故ニ若シ二日或ハ三日ノ休暇ア

ル件ハ必ス多額ヲ費ヤスナルヘシ

中等人民ノ費額

一歳百磅ノ家入アル書記ノ如キハ同額ノ家入ア
ル工匠ニ較フレハ大ニ自家ノ費用ヲ節省スルカ
故ニ其費消スル所少ナク即チ之ヲ分頭スル中ハ
二十加倫酒精ニ加倫或ハ三加倫ニ當ルナリ又百
磅以下ノ家入アリテ下婢ヲ傭使スルモノハ分頭
費額三十五加倫ヨリ四十加倫ニ當ルナリ此他酒
精ハ僅少ニシテ唯葡萄酒少許ヲ用フルノミナリ

上等人民ノ費額

凡ソ富家ニシテ僕隸數人ヲ傭使スルモノハ來客
モ從テ多キカ故ニ大額ヲ費消スヘシト想像スル
トモ其費額ハ却テ甚ダ少ナシ然ルニ富家ノ費用

ス。麥酒中ニ含有スル酒精多クシテ、下等人民ノ費用スルモノ、ハ酒精少クシテ、乃チ右ニ陳スル所ヲ斟酌シテ、英人ノ適宜ニ飲酒スル者ノ額ヲ算計スレハ、上中等人民ノ麥酒ハ、分頭三十五加倫酒精ハ、半加倫ニ當リ、手工ノ分頭費額ハ、二十加倫酒精ハ、半加倫ナリ、又蘇格蘭ノ上中等人民ノ飲料ハ、過半ハ麥酒ヲ費ヤスナレ、凡愛爾蘭ノ上中等人民ハ、專ラ麥酒ノミナリ、又右兩國ノ人民ハ、費ヤス所ノ酒精額ヲ見ルニ、蘇格蘭ノ分頭費額ハ、二加倫愛爾蘭ハ、尙加倫ノ十分ハ、九ニ當ルナリ、之ヲ英蘭上中等ノ人民ニ較フレハ、酒精ヲ費ヤス所ハ、多クシテ、葡萄酒ヲ費ヤス所ハ、少ナシ。

第四章

各人民ノ家入ニ課スヘキ税ヲ論ス。家入税ノ課法ハ、其實直税ナルヲ以テ能ク理財改革家ノ主義ニ合ヒ、又他ノ税ニ較フレハ、大ニ公平ナルヲ以テ、經濟家ノ主意ニモ適ヘリ、凡人民ニハ、或ハ租税長官ニ書ヲ贈リテ賦課ノ不均ヲ論シ、以テ大藏卿ヲ罰セントスルモノアリ、或ハ密書ヲ作り、其不公平ヲ論シテ之ヲ免セントラテ訴アル者アリ、是レ以テ人民ノ苦情止マサル勢ヲ徵スヘキナリ、然レモ課税均同ノ事ハ、意味深長ニシテ漫リニ計ル能ハス、乃チ常ニ公平トスル所ノモノト雖モ不均ヲ表ス、丁徃々アリ、故ニ眞ノ公平トスヘキ點ハ、畢竟説明スヘカラス、モトトス、儲常ニ苦情起ル原因ハ、左ノ二件ヨリスルナリ。

其一

終身又ハ年期ヲ限リテ得ル所ノ家入ト永世得ル所ノ家入トヲ一視シテ賦課スルハ不當ナリ

其二

不動産ヨリ得ル所ノ家入ト動産又ハ職業ヨリ得ル所ノ家入トヲ一視シテ賦課スルハ不當ナリ
右兩件ノ言ハ唯家入税ニ関スルノミナラス一般ノ税課ニモ関涉スルカ故ニ此言ヲ確實正當ト認ムルハ課税一般ノ基礎トナシテ採用セサルヲ得サルナリ然レ氏之レヲ一般ノ課税上ニ照シテ細論センニハ多クノ時日ヲ費ヤサ、ルヲ得サレハ家入税ニ適當セル部分ノミヲ論スヘシ
凡ソ家入ニ數多ノ種類アルカ故ニ之レヲ解剖ス

レハ種々ノ變質ヲ顯ハスナリ蓋シ原因異ナレハ成果モ亦從テ異ナラサルヲ得ズサレハ之ヲ各種ニ分テ其異類ノ限ナキヲ觀ル丁ハ亦一樂事ナラズヤ

動産不動産ハ勿論仮令其他ノ家産タリトモ同種ニテ同額ノ家入ヲ生スルモノハ鮮ナレ何トナレハ同種類ノ家産アランニ或ハ永世之レヲ有スル者アリ或ハ終身之レヲ領スル者アリ或ハ年期ヲ限リテ領スル者アリ又家入ニモ或ハ年期給ヲ以テ生活スル者アリ或ハ年限ヲ定メ不得失ヲ他人ノ意ニ任カス者アリ凡ソ此數ノモノハ常ニ混淆セルヲ以テ一ニ諦視スヘカラサレハ今左ニ其大要ヲ示スヘシ

不動産

一 子孫ニ譲與スルニ特權ヲ有スル財産
一 借地期限ヲ一年ヨリ十年迄ノ間ニ於テ幾年
ト約定シテ領スル財産

一 七十年ヲ一生ト定メテ即チ其七十年間領シ
或ハ事故ニ由テ所有ノ權ヲ失フコトアル財産
動産

一 他人ニ束縛セラル、コトナク領スル財産
一 七十年ヲ一生ト定メテ即チ其七十年間領シ
或ハ事故ニ由テ所有ノ權ヲ失フコトアル財産
一年々減却シユク所ノ終身祿

文業職業

一 一家協同シテ營ム所ノ事業

一 終身獨活スル文業或ハ終身官給ヲ仰ク文業

一 他人ノ意ニ隨テ得失アル所ノ事業

一 凡ソ金錢ヲ費ヤシテ購求スルヲ得ヘキ財産多シ

ト雖モ土地ノ如キ堅固ナル財産ハアラサルヘシ

一 抑土地ヨリ生スル所得ヲ他ノ財産ヨリ生スル所

得ト較計スレハ甚少ナシトス故ニ土地ノ所得ト

他ノ財産ノ所得トニ同シ割合ヲ以テ課スルキハ

資本ハ兩ナカラ同額タリトモ稅ヲ課スルニ至テ

ハ土地ノ方輕クナルナリ例ヘハ尋常ノ土地ヨリ

生スル所得ハ百分ノ三ト三分ノ一ニシテ即チ資

本額百磅ナレハ三磅六分六厘六先ニ當ルナリ故

ニ他ノ財産ト平均ニ課セントニハ右ノ所得ヲ百

分ノ四ト看做テ課スヘシ

義
省

文業或ハ職業ハ傭主ノ意ニ因テ其營生ニ間断ヲ
 生スルカ故ニ自テ其家入ニ得失増減ナキ能ハス
 是ヲ以テ先ツ其家入ノ内ニテ生命保険金ヲ除キ
 置テ之ヲ子孫ノ計ト為シ而テ其保險金ヲ引去リ
 タル殘額ニ輕ク課スヘシ、彌兒氏ハ生命保險金ハ
 家入ノ四分ノ一ヲ適宜トシ、且其營業ニ課スヘキ
 税ハ動産ヨリ四分ノ一ヲ輕課スヘシト説ケリ、今
 左ニ動産ヲ基礎ト定メ七ヲ以テ本位トシテ三種
 比例ヲ掲クヘシ、譬ハ百磅ト擬定シテ動産ノ價額即チ各
 課スレハ、不動産ハ八磅、職業ニ依レハ
 三種税額ノ比例
 一 土地ヲ以テ得ル所ノ家入 百分ノ八半
 一 動産ヲ以テ得ル所ノ家入 同 七

一 職業ヲ以テ得ル所ノ家入 同 五
 又動産ヲ以テ得ル所ノ家入ヲ本位トシテ之レニ
 百分ノ十二ヲ課スレハ左ノ比例ヲ得ルナリ
 一 土地ヲ以テ得ル所ノ家入 百分ノ十四
 一 動産ヲ以テ得ル所ノ家入 同 十二
 一 職業ヲ以テ得ル所ノ家入 同 九
 土地ニ落ツル諸税額
 一 家入税 課額一磅割ニ 百分ノ二
 一 地稅 課額一磅割ニ 同 二
 一 相續稅 課均額 同 一半
 一 證券印紙稅 課均額 同 半
 一 裁許用手紙料 課均額 同 半
 一 縣費 其直ニ平均シ地主ヨリ
 其四分ノ三ヲ出スノ割 同 六
 合計家入百分ノ十一

但シ百磅ニ付十一磅ナリ

○動産ニ落ツル諸税額

一家入税 課額一磅
付五片ノ割ニ 百分ノ二

遺書税 同 同 二

遺産税 同 同 二半

印紙税及手数料 同 半

合計家入ノ百分ノ七

○職業ニ落ツル諸税額

一家入税 課額一磅
付五片ノ割ニ 百分ノ二

印紙税及手数料 同 一

營業税 同 一

合計家入ノ百分ノ三

職業ニ落ツル諸税額ヲ諸動産ノ税ニ較フレハ其

半額ニ當ルナリ又之レヲ土地ノ諸税ニ較フレハ
三分ノ一ニ當ルナリ土地ノ諸税ノ重キ丁是ヲ以
テ知ルヘシ故ニ動産税ヨリ地税ヲ輕シトシテ訴
フルハ實際ヲ知ラサルモノト謂フヘシ

第五章

營業税ヲ論ス

營業税ハ昔時文物未タ開ケサル頃ヨリ既ニ之レ
有リシカ其形跡甚タ曖昧ナレハ國王ノ免許ヲ得
テ其隱密ヲ搜索スルニアラサレハ明カニ知ル能
ハサルナリ何トナレハ其施行ニ偏重アリテ乃チ
或ハ甲業ニ税シテ乙業ニ税セス小量ノ家入アル
者ニ重課シ多量ノ家入スル者ニ輕課スルトイフ
如ク曾テ一定セサレハナリ然シ氏燒耐烟草税ノ

燒耐烟草税

重キハ其價直ヲ騰貴シテ其額需用者ニ落チ間接ニ費消額ヲ制限ナルカ故ニ苦情少ナキモノトス又疑問ヲ発スヘキ玉點ハ稅課ノ為ニ騰貴スル價格ハ多ク小賣商人ノ手ニ落チテ政府ノ金庫ニ入ル丁少ナキハ何如ト云ニアリ既ニ麥酒營業稅ノ如キハ五時吟五片ヲ課セシキハ其價直六片ニ騰貴シ燒酎ハ課稅額ノ外ニ代價百分ノ五ヲ騰貴セリ諸稅中最モ苛酷ナルハ馬車稅ナリ今乃チ一匹牽或ハ二匹牽ノ馬車ヲ以テ活業スル者ノ家入ノ内其諸雜費ヲ引去リテ全クノ課額ヲ計レハ左ノ割合トナルナリ

○馬車ニ落ツル諸稅
 一歳ノ家入 百八十二磅

内引去ルヘキモノ左ノ如シ

飼料 毎週四十二時 割合ナリ 百零九磅

修繕費 八磅

資本金百磅ノ利子 五磅

印紙稅 一磅

日課稅 十八磅

殘テ 四十一磅

右ノ表ニ據レハ課稅額ハ三割二分ニ當ルナリ然レ此賃錢ニ成規アリテ一里六片ヨリ多クヲ得ル丁能ハサルヲ以テ之レヲ乗客ノ拂フヘキモノトスルハ不可ナリ又殊ニ苛歛ヲ極メタルハ鐵道稅ナリ何トナレハ遺書稅遺產稅縣費等ヲ課セラレハ三ナラズ一

鐵道稅

般ノ税課ヲモ賦セラル、ナリ。

鐵道ニ落ツル諸税

一 財産税 家入百分ノ二

一 遺書税 同 二

一 遺産税 同 二半

一 縣費 同 四下三分ノ一

一 一般ノ課税 同 二半

合計家入百分ノ十三ト三分ノ一

右ノ算計ニ據レハ其一般課税ノ額ハ尋常ノ動産税ヨリ殆ント二倍スルナリ、豈不公平トイハサルヘケンヤ、加之ナラス資本組立ノ何如ニ因テハ尚ホ一層重ク課セラレ、丁ナキヲ保スル能ハス

第六章

所出税

各人費用スル物品ニ賦課スル物

所出税ハ各人民ノ費用スル所ノ物品ニ課スヘキ税ナルヲ以テ、其費用ヲ節省スルト浪費スルトニ因テ其落ツル所ノ課額ニ増減ヲ來レ、從テ家入ニ其影響ヲ及ホスヘキカ故ニ確之カ額ヲ算定スル丁能ハサルナリ、然レモ家入ノ多寡ニ從テ規則ヲ設ケ以テ上中下等人民ノ平均費額ヲ算計スル中ハ稍適當ノ額ヲ得ヘキニ似タリ、且其上中等人民ニハ三様ノ算法ヲ用ウ乃チ第一ヲ上等第二ヲ中等ノ上第三ヲ中等ノ下トナス是ナリ

第一 上等人民

一 歳ノ家入五千磅アリテ府内ニ店舗ヲ開キ村落ニ住宅ヲ占メ、乃チ店舗ノ概直ニ歳四百磅住宅ノ

鐵道

備直百五十磅ト假寐シ而ノ僕二人婢七人及厩廐
園丁獵師等六人其外馬車飼馬等アリトシテ計ル
中ハ左ノ割合トナルナリ

- 一 縣費 四十四磅
- 一 雜課 四十三磅
- 一 獸獵稅飼犬稅金銀皿稅 十五磅
- 一 火災保險稅 八磅
- 一 諸印紙稅門閤稅及其他ノ稅 五十磅
- 一 穀類稅 七噉吟
- 一 茶稅 三磅十四噉吟
- 一 加琲稅 一磅八噉吟
- 一 砂糖稅 五十磅五噉吟
- 一 菓物稅 二磅

- 一 烟草稅 六磅
- 一 葡萄酒稅 二十六磅
- 一 麥酒稅 九磅十噉吟
- 一 酒精稅 五磅八噉吟

合計二百二十磅

第二 上等ノ中

文業或ハ職業ノ如キ一歲ノ家入五百磅其住居ノ
備直五十磅ト假寐シ而ノ下婢三人アリトシテ計
ル中ハ左ノ割合トナルナリ

- 一 縣費 五磅
- 一 雜課 三磅
- 一 獸獵稅飼犬稅金銀皿稅 十五磅
- 一 火災保險金 一磅

一 諸印紙稅門閔稅及其他	五磅
一 穀類稅	四時吟
一 茶稅	一磅四時吟
一 加琲稅	八時吟
一 砂糖稅	一磅十三時吟四片
一 菓物稅	十四時吟八片
一 烟草稅	六磅十二時吟
一 葡萄酒稅	二十六磅
一 麥酒稅	九磅十時吟
一 酒精稅	五磅八時吟
合計二十五磅十五時吟	
第三 中等ノ下	
商人ノ手代或ハ書記役ノ如キ年給九十九磅ヲ得	

ルト假定シ而ノ僕婢ナク住居ノ儻直十五磅ト假
 算シテ計ル中ハ左ノ割合トナルナリ

一 縣費	十五時吟
一 雜課	三磅
一 獸獵稅飼犬稅金銀四稅	十五磅
一 火災保險稅	一磅
一 諸印紙稅門閔稅及其他ノ稅	十五時吟
一 穀類稅	二時吟六片
一 茶稅	十時吟
一 加琲稅	五時吟
一 砂糖稅	十九時吟
一 菓物稅	二時吟六片
一 烟草稅	一磅二時吟

一 葡萄酒稅

一 磅十二時吟

一 麥酒稅

一 磅二時吟

一 酒精稅

一 磅一時吟

合計七磅十四時吟

僕婢ノ費用スヘキ茶砂糖麥酒等ノ稅ヲ傭主ノ費額中ニ笑入スルハ甚不當ナリト論スル者アリ然レモ之ヲ別類トナシテ其額僅少ニシテ精密ニ笑計スル能ハズ縱令傭主ノ費額中ニ笑入スルトモ其統計ニ至テハ敢テ大ナル差異ヲ來サズルナリ故ニ之ヲ傭主ノ費額ト看做スモ不可ナルトナシトス

以上ハ上等及中等上下ノ人民ハ拂フヘキ稅ヲ示シタルモノナリ因テ以下ハ下等人民ノ費額ヲ示スヘシ夫レ下等人民即チ工夫ノ如キハ其都城ニ住スルト村落ニ住スルトニテ其費額大ニ異ナルナリ故ニ之ヲ計ルニ通常ノ說ニ據ラズシテ諸地方ニ於テ適宜ニ生計ヲ營ム所ノ家族五十戸ノ實際ノ費額ヲ取テ之ヲ四種即チ西倫敦東倫敦及城市村落ニ區分ス斯ル方法ニ據テ計ルトハ他ノ章中ニ掲載スル所トハ甚異ナルナリ余之ヲ笑計スルニ方テ適一大印刷所ニ傭使セラル所ノ職工五十戸ヨリ各其費額ヲ詳細ニ記シテ贈ラレリ即其家入ハ五十磅ヨリ百三十五磅迄ニシテ其費消スル所ノ額甚異ナルモノ多シ此他精笑ノ稟報書ヲ贈リシモノ少ナカラズ皆誠ニ謝スルニ絶エタリ然ルニ獨リ愛爾蘭ノ貧民ハ一向スラ其費額ヲ

藏書

告知スルヲ隱諱シタルハ遺憾ト謂フヘシ是ニ由テ之ヲ推量スレハ政府力愛爾蘭ニ於テ諸工錢ヲ稽查スルニ方テモ精算ヲ得ルヲ能ハズルヘシト信ス何トナレハ或ハ臨時ニ使役セラルハニ付テ得ル所ノ工錢ヲ遺ス丁モアリ或ハ小兒ノ得ル所ノ工錢ヲ遺スコトモアリ或ハ麦酒及酒精ノ費額ヲ隱諱スル丁モアレハナリ然ルニ所出額ヲ隱諱スル丁アルノミナラス所入額ニモ亦隱諱スル丁アルヲ以テニツテ斟酌スレハ最テ差異ナカルヘシ是ヲ以テ先ツ右ノ五十戸ヨリ贈リタル稟報書ニ信據シテ左ニ之ヲ記載ス

西倫敦職工ノ負額

但シ平均ノ一戸四人半一歳ノ家

入九十二磅トシテ算計シテ左ノ割合ヲ得タルナリ

品名	分頭ノ費額	課税額
縣費		三磅六時吟
穀類		二時吟三片
茶	四介半	十時吟六片
加琲	四介	五時吟三片
砂糖	三十三介半	十二時吟六片
烟草	一介半	一磅一時吟
麦酒	二十三加倫	十七時吟六片
酒精	半加倫	十五時吟六片
合計		七磅十時吟六片

東倫敦職工ノ負額

平均ノ一戸四人半一歳ノ家

五十
三
左
割
合
得
タ
ル
テ
美
計

縣費	穀類	茶	加球	砂糖	烟草	麦酒	酒精
今頭ノ費額		三斤十五分ノ一	一斤	二十五斤	一斤	六加倫	加倫ノ六分ノ一
課税額	四磅六時吟	三時吟	九時吟六片	一時吟四片	十二時吟二片	一磅一時吟八片	五時吟十片
							七時吟六片
							合計十五磅十八時吟

城市職ノ負額

但一歳ノ家ノ平均
十七磅十四時吟
人口五千人

美計
得タルノ割

縣費	穀類	茶	加球	砂糖	烟草	麦酒	酒精
今頭ノ費額		四斤	四斤半	十八斤三分ノ一	一斤半	十八加倫半	加倫ノ十一分ノ三
課税額	十二時吟六片	二時吟九片	十一時吟	六時吟一片	八時吟六片	一磅七時吟七片	十七時吟
							十時吟六片
							合計四磅十五時吟十二片

村落職工ノ負額

但一歳ノ家ノ平均
十四磅十時吟
人口五千人

職

得左ノ割合ヲ
ルナリ

縣費	穀類	茶	加球	砂糖	烟草	麦酒	酒精	縣費其他物品税
分頭ノ費額	二斤半	二斤半	一斤ノ五分ノ三	十三斤	一斤ノ五分ノ四	六加倫	加倫ノ十一分ノ三	トモ工夫ノ拂フ所ノ額ハ城市ノ
課税額	四時吟七片	六時吟	十片	五時吟十片	十時吟六片	五時吟	十時吟六片	合計一磅十九時吟六片

職工ノ拂フ額ニ比スレハ甚少ナレ

第七章

税額ノ外課税アルカ為ノニ
拂フヘキ費額ヲ論ス

是章ハ問題ヲ三項設ケ以テ真ノ課税額ノ外ニ課
税アルカ為ノニ納税者ヲシテ出費セシムル所ノ
モノアルヤヲ論スヘシ即チ第一項ハ政府ノ金庫
ニ實入スルモノ、外納税者ヨリ多少收集スル所
ノモノアルヤ或ハ税課ノ真額トスルモノハ何如
第二項ハ收集方法ノ良否ニ因テ賦課ニ偏重ヲ生
スルヤ何如第三項ハ收税官カ收ムル所ノ真ノ税
額ノ外ニ課税アルカ為ノニ間接ニ納税者ヲシテ
出費セシムル丁アルヤ何如ノ三ツ是ナリ凡ソ何
種ノ税タリトモ右ノ問題ニ對シテ完全無缺トス

ル所ノモノハ必ス之レナント信ス第一ノ問題ニ
答フルニ最モ緊要トスル所ノモノハ諸税ヲ收集
スルノ費用ナリ然レモ縣稅ヲ收集スルハ費用ハ
算計スルノ便ナキヲ以テ姑ク閣キ先ツ國稅ノ
三ニ就テ計ルヘシ而シテ之ヲ計ルニハ大藏省ノ記
録ニ據テナスヘシ夫レ收集費用ノ中ニハ海防兵
ノ費用ヲ計ラズンハアルヘカラス又特種ノ防備
兵アリテ海防兵ニ代リテ勸ムルコトアルヲ以テ此
費用モ亦計ラズンハアルヘカラス然レモ海防兵
ハ獨リ海關稅ノ豫防ニ備フルノミナラス海軍ノ
豫備トモナリテ稅務ト軍務トヲ兼ヌルヲ以テ其
費用モ亦折半シテ一半ヲ軍務ノ費用ニ加ヘ一半
ヲ收集費用ニ加フ

海關稅ノ收集費用

一 諸官吏ノ給料養老銀及雜費 九十四萬四千磅
一 海防兵ノ費用及養老銀 三十八萬六千磅

内國稅ノ收集費用

一 諸官吏ノ給料養老銀及雜費 百五十一萬磅
貳款ノ合計二百八十四萬磅

右海關稅ノ收集費用百三十三萬磅ハ其收額二億
二千六十五萬磅ノ百分ノ六内國稅ノ收集費用二
百八十四萬磅ハ其收額三千九百四十萬磅ノ大約
百分ノ四ニ當レリ然レモ海關稅ノ如キハ其收集
費用尠ナカラズト雖モ酒精類ニ課スルニハ最モ
便利ナルモノトス故ニ其收集費用ノ多キモ敢テ
冗費トハセサルナリ

第二ノ問題ニハ家入税ヲ以テ答フレハ適合スヘ
シ、何トナレハ職工ノ得益ニ課スル税ノ如キハ其
利潤ヲ計リテ税ヲ賦スルナレハ人民モ輻湊シ職
業モ繁盛ナル地ニ住スル者ノ利潤ヲ計リ之レヲ
一般ノ模範トシテ全國ニ課税スルハ僻邑遐陬
諸業衰耗ナル地ニ住スル者ハ必ス不均ノ賦課ヲ
被ラサルヲ得サレハナリ

第三ノ問題ニ答フルハ他ノ問題ニ較フレハ其困
難ナリ何トナレハ税課ヲ口實トシテ物價ヲ騰貴
シ納税者ヲシテ眞ノ税額ノ外ニ尚ホ出費セシム
ルノ往々之レアレハナリ抑税種多キ中ニモ地税
ノ如キハ課額ノ外ニ出費セシムルノ最モ著シキ
モノトス本邦地税ノ收額ハ一歳ニ百零九萬三千

磅ナレハ地主ノ手ヨリ出ス所ハ現拂或ハ延納等
アリテ二百零三萬七千磅ニ及フトイフ故ニ地主
ハ税課ノ外ニ九十四萬四千磅ヲ拂フナリ
遺書税ノ收額ハ納税者カ有スル所ノ動産ノ價百
分ノ二ニ當ルナリ然レハ納税者カ手ヨリ出ス所
ハ百分ノ二ト三分ノ二ニ至ルナリ又遺産税ノ割
合ハ其家産百分ノ二分五厘ヲ課スト雖モ納税者
カ出ス所ハ百分ノ三ト三分ノ一ニ當ルナリ
海關税ハ他ノ税課ニ較フレハ物價ヲ騰貴セシム
ルノ甚シ就中穀類ハ其輸入税一、コールドルニ一
時吟ヲ増加スルナレハ納税者ハ之レカ為メニ
一時吟以上ヲ拂フナルヘシ而シテ其餘額ヲ豫算ス
レハ眞ノ税課ハ分頭七斤トナルナレハ人民ハ十

六片ヲ出スナリ、故ニ九片ハ全ク税課ノ外ニ拂フ
所トナルナリ是レ獨リ穀類ノミナラス他ノ輸入
品ト雖モ亦税課ヲ口實トシテ騰貴セシムルモノ
枚舉ニ違アラス

或ハ関税局ノ課税ノ順序ノ不便ナルト其遲延ナ
ルトニ因テ納税者ニ數百萬磅ノ過額ヲ拂ハシム
ルトアリト雖モ未タ以テ一定ニハ言フヘカラサ
ルモノアリ、何トナレハ茶税ノ如キ税課ノ外ニ過
額ヲ出サシムルハ関税局ノ方法ノ宜シカラサル
カ為メニアラス税課ヲ口實トシテ奸商ノ利ヲ射
ルヲ以テナリ、乃チ其過額一萬二千磅トナルナリ、
或人曰ク、砂糖税ハ大ニ納税者ニ損耗ヲ蒙ラシメ
タリ、乃チ其損額ハ砂糖全額ノ一割ニ當ルナリ、蓋

シ此害ヲ來スハ海関税ト内國税ノ順序ノ宜シカ
ラサルトニ由レルナリ、抑此税ハ先ツ商人ニ課シ
而メ商人之レヲ物價ニ加ヘテ需用者ヨリ收ムル
ヲ以テ、税課ヲ口實トシテ自己ノ利益ヲ増スニト
容易ナリト、此説理ハ則チ似タレ、又問、然ラサル
モ、アリ、乃チ今先ツ其一歳ニ費用スル所ノ物價
ノ價格ヲ計リ之ヲ耕夫、職工等ノ利益、船賃、税額、問
屋、小賣商人ノ得益ノ間ニ分賦スルキハ商人ノ得
ル所甚少ナシ

一千八百六十七年ノ調査ニ據テ一歳ニ費用スル
所ノ茶、加琲、砂糖ノ代價ヲ計リテ左ノ額ヲ得タリ

一茶ノ代價	一千四百八十萬磅
一加琲及ニコリー	二百三十一萬八千磅

一 砂糖 職葉ノタノニ費用 二千百六十萬磅

合計 三千八百七十一萬八千磅

但シ茶一斤ニ付二時
付四片羊等ノ割合ヲ
以テ算出スルナリ

又右ノ合計 三千八百七十一萬八千磅ヲ元價其他
ノ三種ニ配算スレハ九ノ割合トナルナリ

一 茶加琲砂糖ノ元價 二千百八十七萬八千磅

但シ稅銀ヲ拂ハサル前ノ價
格ナリ

一 同課稅額 八百零八萬七千磅

一 同製造スル節ノ費消額 二百五十七萬磅

一 同諸雜費及資本ノ利子 六百十八萬三千磅

合計 三千八百七十一萬八千磅

又商人ノ利益ヲ計リミルニ茶加琲砂糖等ハ他物

ニ較フレハ甚小利ナルモノトス就中砂糖ノ如キ

ハ最モ少ナシ然レ氏小賣商人ハ其小利ニ慣習セ

ルカ故ニ曾テ意トナサハルナリ乃チ茶ノ利益ハ

一斤ニ付七片加琲チコリ一ハ四片砂糖ハ僅ニ羊

片ナリ一千八百五十六年ニ刊行ニナリタル倫敦

食料說ト題セル書ニ據ル片ハ問屋仲買ノ砂糖加

琲茶等ヲ賣却シテ得ル所ノ利益ハ譬ハ一介ノ

稅額ニ二時吟二片ヲ課スト看做セハ平均八片ノ

利益アリトス又今ヨリ十三年前ニハ小賣商人ノ

利益ヲ計ル丁最モ難事ナリキ何トナレハ稅銀ノ

利子ヲ物價ニ加フルカ故ニ利子ト利益ト相混シ

テ判然セサレハナリ是ヲ以テ若シ茶稅ヲ廢止ス

レハ是レ近小賣商人カ課稅ヲ口實トシテ獲タル

所ノ利益薄クナルヲ以テ需用者ヲ拂フ所減少ス
 ヘシ又實地經驗ノ説ニ據ルキハ茶及加琲ノ税ア
 ルカ為メニ需用者ヨリ税額ノ外更ニ其代價ノ一
 割ヲ拂ハシムルカ故ニ之レヲ免スレハ需用者カ
 費額ノ一割ヲ減スルトナルナリ然レモ砂糖税
 ニ至テハ然ラサルモノアルヲ以テ仮令此税ヲ免
 スルモ需用者ノ費用ハ曾テ減セサルナリ
 一千八百六十七年ニ費用シタル葡萄酒、麥酒、酒精
 等ノ代價左ノ如シ

- 一 葡萄酒 一千零二十萬磅
- 一 麥酒 四千二百五十萬磅
- 一 英製酒精 二千百六十萬磅
- 一 外國或ハ藩屬地產ノ酒精 六百七十三萬磅

合計 八千四百零三萬磅

但シ葡萄酒一付一
 加倫^五時^冷英製^酒酒^精一^付加倫^麥酒^一
 加倫^五時^冷外國^酒酒^精一^付加倫^麥酒^一
 然レモ小賣ノ價
 格ハ笑入セズ

又右ノ合計ヲ左ノ各科目ニ配笑スル中ハ

- 一 葡萄酒、麥酒、英製酒精及其他ノ元價 三千百九十三萬磅
- 一 課税額及營業税 二千四百二十三萬磅
- 一 瓶ノ代價、借庫料及其他ノ費用 二百零七萬磅
- 一 商人ノ利益、諸雜費及資本ノ利子 二千六百零八萬磅
- 合計 八千四百三十萬磅
- 右ニ掲ケタル葡萄酒及麥酒ノ税ハ平均其代價ノ
 一割半餘ニ當リ、酒精ハ四割六分ニ當リ、資本

金ノ利子ハ甚多クシテ三割一分程ニ當レリ此レ
皆人民ノ拂ハキ所ナレ氏下等人民ノ出ス方多
キニ居ルナリ蓋シ是等ノ酒類ハ醸造ノ際ニ賦課
スルヲ以テ此ノ如ク資本ニ利子ヲ加フルナリ
託言ヲ設ケテ過額ヲ加フルナリ然レ氏茶税又
ハ砂糖税ノ如キハ精製ノ後ニ課スルヲ以テ資本
ノ利子ヲ加フルナリ甚僅少ナリ

烟草ハ他物ニ比スレハ種類多ク且其價格ノ差等
甚ナカラス乃チ其最下ノ烟草ヲ「シヤグ」ト謂フ此
レハ大抵一介四時吟ヲ通常ノ價格トス是レ專ラ
貧民ノ費用スル所ニ係ルナリ而シテ其四時吟ノ内
課税額三時吟二片ヲ除ケハ殘額僅ニ十片ナリ故
ニ烟草高ノ利益少ナキハ異トスルニ足ラサルナ

リ然レ氏烟草商ハ之レニ水ヲ灌キテ其量目ヲ重
カテシメテ概ネ一割五分ノ利益ヲ罔ニスト云フ
是レ宛モ醸造家ノ酒精ニ水ヲ混和スルト相似タ
リ然ルニ斯ク黠策ヲ以テ利益ヲ占ムルナレト右
ノ内ヨリ店舗ノ諸入費ヲ引除カサルヲ得ス且上
製葡萄酒或ハ上製酒精ノ如キ數年間貯ヘ置カ
ルヲ得サルモノハ其資本ノ利子多キヲ以テ是亦
利益ノ内ヨリ其利子ニ充ツヘキ分ヲ引除カサル
ヲ得ス故ニ得ル所ノ利益ハ頗ル多キカ如ク見ユ
レ氏其實ハ寡ナキナリ

工夫ノ如キハ貧乏ニシテ一旦ニ多量ヲ購求スル
能ハス何レ氏少許ヲ度々ニ購求スルヲ以テ止ラ
得ス高價ヲ拂スナリトナルナリ乃チ譬ヘハ茶ノ如

キ多量ヲ購求スルハ一介ニ時吟八片ナルヘク
 レ氏少量ヲ購求スルハ四時吟ヲ拂ハサルヲ得
 ス烟草ノ如キモ亦多量ナレハ四時吟ヲ以テ購求
 スルヲ得ヘキヲ少量ナレハ五時吟四片ヲ拂フナ
 リ其他類ヲ推テ知ルヘシサレモ亦物價ノ騰貴シ
 タシ原因ハ壹ニ課税ノ為ノニ生スルトハ謂フヘ
 カラス石炭牛酪ノ如キ無税品ト雖モ騰貴スル丁
 アレハナリ

- 課税ヲ口實トシテ眞ノ税額ノ外ニ拂フヘキ額ヲ
 左ニ掲ク即チ百磅ノ家入アル者ヨリ出ス所ノ割
 合ナリ
- 一家入税 六時吟
- 一 地稅 十五時吟

- 一 不動産ニ屬スル費用品 十時吟
- 一 遺書稅 十三時吟四片
- 一 遺產稅 十六時吟八片
- 一 動産ニ屬スル費用品 十時吟
- 一 穀類 五時吟
- 一 酒精 一磅
- 一 茶烟草加琲 五時吟

第八章 合計五磅一時吟

租稅說ノ要結
 凡ソ租稅上ニ起ル疑問多シト雖モ左ノ二條ヲ
 以テ諸般ノ疑問ヲ蔽フヲ得ヘシ

第一條

凡ソ一國ノ租税ヲ收集スルニ此等級ニ重課シ彼等級ニ輕課スルノ理アリヤ

第二條

果シテ賦課ニ輕重ヲ生スルコトアラハ何等ノ方法ヲ以テ之レヲ改正スルヤ

右貳疑問ニ詳細ノ答辨ヲナサシニハ其論主頗ル錯雜セルヲ以テ事長談ニ涉ラサルヲ得サレハ先ツ其結果トナルヘキ課税額ノ要領ヲ掲ケ以テ之ヲ目的トシテ然後ニ漸ク答辨ニ進マントス

上中等人民ノ課税額

一家入税 四億九千萬磅

一雜課 五千二百萬磅

但右二件各戸ノ家入百分ノ十ト五厘ニ當ル

下等人民ノ課税額

一家入税 三億二千五百萬磅

一雜課 二千二百六十萬磅

但右二件各戸ノ家入百分ノ七ニ當ル

右ノ課税額ヲ算計スルニハ酒精ノ費用額ハ中算ヲ取り、上中等人民ノ傭使スル所ノ僕婢ノ費消スル茶砂糖麦酒等ノ税ハ其傭主之レヲ拂フモノトス、又下等人民ノ課税額中ニハ一百萬ノ窮民カ費用セル物品ノ課税額ヲモ合シタリ、即其下等人民ノ費額ノ如キハ最モ確實ナルモノナリ

右算計ニ據レハ下等人民ノ課税額ハ上中等人民ノ課税額ヨリ輕キト凡ソ三分ノ一弱ニ當ルナリ、然レ

凡之レニ豪飲家ノ費額ヲ合スレハ下等人民ノ比
例ノ増加スルヲ左ノ如シ

一 上中等 家入ノ一割一分

一 下等 同 九分

然レ凡豪飲家ノ費額ヲ尋常酒客ノ費額ニ加フル
ハ不當ナリトス、何トナレハ豪飲家ハ獨立シテ生
活ヲ営ムト能ハス多クハ他人ノ救済ヲ仰ケハナ
リ
上中等人民ノ課額ヲ分析スレハ動産、不動産、職業
ノ三種トナルナリ、而シテ右三種ノ家入ヲ以テ拵
所ノ税額ハ各異ナルナリ、今動産ヲ本位トシテ他
ノ家入ヲ計ルニ不動産ノ課額ハ動産ヨリ輕キ
四分ノ一ナリ、則チ動産ヲ以テ得ル所ノ家入ノ課

額ヲ十二ト定メテ他ノ財産ヨリスル所ノ家入ト
較計スレハ左ノ割合ヲ得ルナリ

上中等人民ノ課税額

一 動産 十二

一 不動産 十四半

一 職業 九

下等人民ノ課税額

一 工役 六或ハ七

右ハ理論上ニテ計リシ所ナレ凡實地經驗上ノ実
計ニ據レハ左ノ割合ヲ得ルナリ

上中等人民 不動産課税額 動産課税額 職業課税額

家入 五十磅 七百七十磅 五百七十磅 三百五十磅

家入 五百磅 八十磅 六十磅 四十磅

家入 九十九磅	十六磅	十三磅	八磅
下等人民			工役ノ課税額
家入 五十磅			三磅十時吟

又正税額ノ外ニ課税ヲ口實トシテ奸商ニ獲ラル
ハ所ノ額マリ因テ之ヲ算計セン為ノ左ニ正奸ノ
二項ヲ掲テ其比例ヲ示スヘシ

奸商ニ獲ラル、所ノ額ヲ加ヘサル割合

上中等人民	家入百分ノ十六
一 不動産ノ課税額	同
一 動産ノ課税額	同
一 職業ノ課税額	同
下等人民	同
一 工役ヲ以テ得ル家入ノ課税額	同

奸商ニ獲ラル、所ノ額ヲ加ヘタル割合

上中等人民	家入百分ノ十七半
一 不動産ノ課税額	同
一 動産ノ課税額	同
一 職業ノ課税額	同
下等人民	同
一 工役ヲ以テ得ル家入ノ課税額	同

右ノ算計ヲ國民一般ノ歳收總額ニ照角スレハ一
割一分五厘ニ當ルナリ、此他鐵道税、保險税、穀類税
等ノ重課アリ

諸前ノ二箇ノ疑問中第一ノ疑問即チ凡ソ一國ノ
租税ヲ收集スルニ此等級ニ重課シ彼等級ニ輕課
スル云云ニ答辨スルニ左ノ四箇條ヲ以テスヘシ

第一條

鐵道税ノ如キハ最モ重課ナレハ人民ヲ苦シマシ
ムルコト大ナリ又保險税穀類税ノ如キハ其課法宜
シキヲ得サルヲ以テ人民ヲシテ節省ノ念ヲ弛廢
セシメ且政府ノ金庫ニ實入スルモノ、外ハ奸商
課税ヲ口實トシテ漫リニ利ヲ罔スルコト多シ故ニ
宜ク速ニ之ヲ廢止スヘキナリ

第二條

下等人民即チ工夫ノ課税ヲ上中等人民ノ動産不
動産ヨリ得ル所ノ家入税ト較計スレハ其額輕ケ
レ上中等人民ノ職業ヲ以テ得ル所ノ家入ノ税
ト較計スレハ重シ故ニ幾分カ之ヲ減殺スルヲ要
ス

第三條

不動産ノ税ハ他ノ諸税ノ方ヨリ之ヲ觀レハ尚ホ
宜ク重課スヘキ如クナレハ動産ヲ以テ得ル所ノ
家入ノ税又ハ職業ヲ以テ得ル所ノ家入ノ税ニ照
角スレハ重キニ過クルナリ

第四條

借家人ニ賦課スル租税ハ最モ不公平ニシテ最モ
厚歛ナルモノトス
第二ノ疑問即チ果シテ賦課ニ輕重ヲ生スルアラ
ハ何等ノ方法ヲ以テ云云ニ答辨スル左ノ如シ
九ノ何等ノ物タリハ其事ノ害ヲ擧クルハ更ニ改
正ノ方法ヲ示シテ之ヲ矯正スルヨリモ為レ易キ
所アリ又事ヲ實地ニ施行スルハ之ヲ紙上ニ討論

スルヨリモ難ク所アリ然レモ左ノ諸税ハ必ス廢止スルヲ要ス

一 郵便用ノ馬車及馬税 二十八萬四千磅

一 鐵道税 四十八萬六千磅

一 火災保險税 九十七萬四千磅

一 穀類税 八十七萬六千磅

合計二百六十二萬磅

右諸税ノ合計ハ其額僅少ナラサルヲ以テ速ニ廢セントスルキハ勢害ヲ來サ、ルヲ得ス、故ニ宜ク策ヲ設ケ漸ク以テ絶ツヘシトス

又下等人民ノ課税額ハ左ノ三科目ヨリ成ルナリ

一 家税及雜課 平均家入ノ百分ノ一

一 穀類加琲砂糖茶 同 二

一 酒精及烟草税 同

但シ酒精ハ豪飲家ノ量ヲ計レハ平均家入ノ百分ノ二ニ當タルナリ

右ノ課額ハ何等ノ方法ヲ以テ減殺スルヲ得ヘキカ、先ツ其内最モ大ナル科目ニ就テ言フキハ、則チ酒精税、烟草税是レナリ

第二方法 課額ヲ減殺シテ商業ノ道ヲ開クヘシ然レモ此方法ハ下等人民ノ利トハナラスシテ却テ害トナランコトヲ恐ル、ナリ、且酒價低折スレハ豪飲家益增加スヘク將タ酒精ノ價ノ賤キト麦酒店ノ多キトハ酒客ヲ滋スノ原因ニシテ即チ貧民ノ害トナルコト人々皆知ル所ナリ、故ニ麦芽ニ課スルノ法ヲ改正シテ宜ク夫ノ課税ヲ口實トシテ利ヲ射ルノ弊ヲ矯正シ、專ラ健康ニ要用ナル良品ヲ

製シ以テ經濟ノ道ヲ謀ルヘシ

第二方法 酒精ノ賣捌額ニ制限ヲ設クルヲ至要トス、就中營業稅ノ課法ヲ改正シテ豪飲ノ弊ヲ矯正スレハ人民ノ苦情之レナク國家真正ノ利益ヲ興スヲ得ヘシ

第三方法 嚴法ヲ設テ麥酒酒精ノ偽造ヲ防クヲ至要トス、就中人身ヲ害スヘキ物品ヲ混合スルヲ禁止スヘシ又穀類ノ稅及ヒ茶加琲ノ營業稅ヲモ廢止スヘシ

縣費ハ各縣何レモ其課額ヲ異ニシ收集ノ時期モ一定ナラサルカ故ニ納稅者ノ困難多ク、且間貪縣ノ課額富縣ノ課額ニ越エルコトアリ亦不平均ナラ

